

## 終章 【大谷大学】

本学は、序章にも記したとおり、その起源を尋ねるならば、1665年東本願寺の研究教育機関として設立された「学寮」にまで遡ることができる。大谷大学として開設した1949年からでも、既に65年の歴史を有している。現在の本学について、10の基準に基づき点検・評価した各章の内容を踏まえ、終章では以下3点について簡潔に記しておきたい。

### 1、理念・目的、教育目標の大学全体の達成状況

第1章で記したとおり、本学は建学の理念を仏教、殊に浄土真宗に据え、いかなる時代・社会の状況においても、自己と人間の課題を深く見つめ、人間の立脚地を考えつづける姿勢をその学びの根幹においてきた。つまり、自己の信念の確立を建学の理念として掲げ、各学科、各専攻における学修、研究をすすめてきたのである。その達成状況は、概して言えば、第4章で述べたように、建学の理念、教育目標のもとに各方針、教育内容やその方法等を体系的に関連づけた体制を構築して、文学部、文学研究科とも学生に対する教育、研究指導を実施しており、学位授与方針に定めた能力が身についたかを判定する評価指標の開発という点で課題は残るものの、本学の現状は理念・目的、教育目標の達成度において低くはないと判断している。

ただし、理念・目的、教育目標の達成は不断に努力していくべき質の事柄であり、どこかで終わるというものではない。より高い水準において本学の理念が達成できるように取り組んでいく。

### 2、優先的に取り組むべき課題

今回の認証評価における取組を通して、改めて見出された課題は少なくない。特に仏教学科の定員未充足については、優先的に取り組むべき重大な課題であると認識している。仏教学科は真宗学科とともに本学における建学の理念を体現する学科であり、本学の根幹にかかわる問題である。仏教学科の定員未充足については、従来から継続的に入学センターと当該学科所属の教員を中心に対処策に取り組んで来ているが、定員充足については悪化の一途をたどっている。

そこで、第5章に記したように、仏教学科の入学定員を適正規模に変更するとともに、大学総合企画委員会において学科の改編計画等を含めて検討し、2014年10月に同委員会がその内容を学長へ答申した。現在は、その答申を受けて、学長会が改善方策を検討しているところである。

### 3、今後の展望

本学は、大谷大学短期大学部とともに2011年に「グランドデザイン」を宣言した。これは2012年度から2021年度の10年間を対象としたものであるが、その策定から既に3年以上の月日が経過している。本学は、この「グランドデザイン」に対しても点検・評価の一環として、改善すべき内容については、より実のあるものとするためにその一部を改訂している。

本学の今後の展望については、この「グランドデザイン」のもと、時代の激しい潮流の変化や社会のニーズに応じつつ、本学の一貫して掲げ続けてきた理念・目的の達成のため、教職員が協働して本学の責任を果たしていく以外にないと考えます。

## 終章 【大谷大学】

本学の運営の面では、運営に関する重要事項を審議・決定する学長会と、運営の責任組織である大学運営会議を設置した。この体制での大学運営は現在その緒に就いたばかりである。また教育研究に関わる全ての組織が自らの責任で点検・評価を行い、その結果を改善へとフィードバックしていく体制（内部質保証の手続）もまた構築した所であり、本学におけるこのような体制の整備がどのような結果をもたらしているかについては、まだそれを明確に判断する時に至っていない。

しかし本学のこれらの新しい取組は、今後の展望を考える上で重要な意味を持っている。自らの責任をもって、理念・目的の達成という点においても本学の運営における改善という点においても不断に検証しつつ、検証の結果を改善に向けてフィードバックしていく実のある体制の充実を図ることが本学のこれまでの長い伝統と大きな遺産を受け継ぎ、未来の本学のあり方を切り開く不可欠な契機であることを明記して、本報告書の結びとしたい。